

## 2 子どもを育てることの喜びと責任

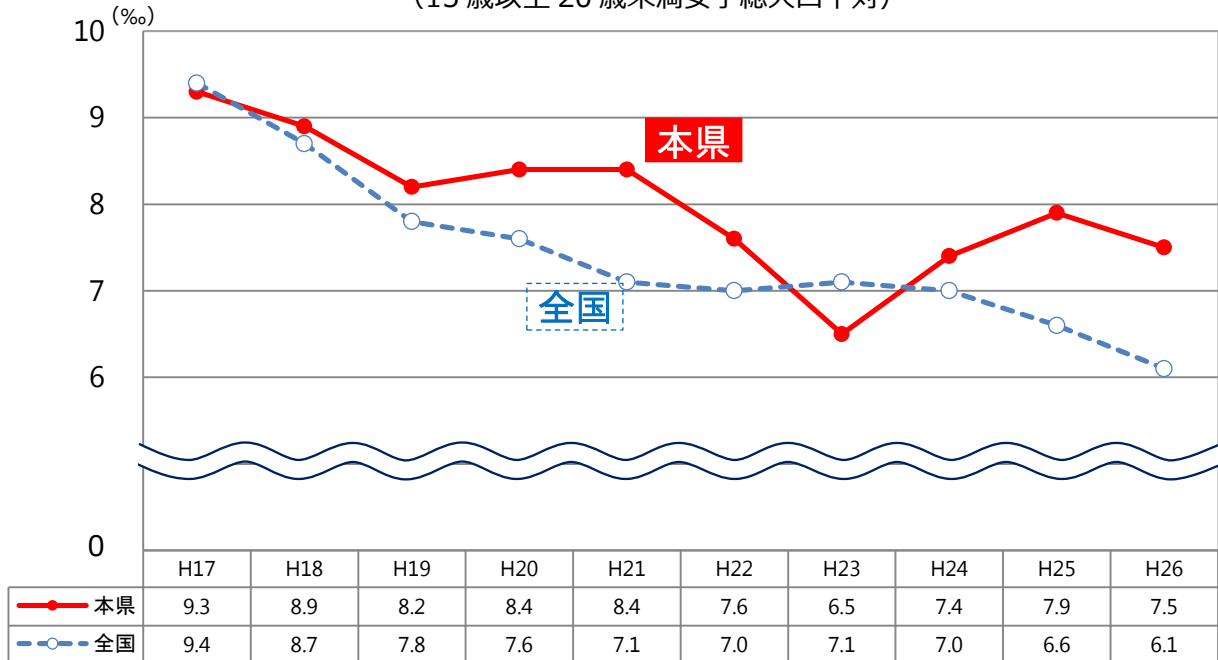
(1) 子どもを育てることの素晴らしさや喜び、かけがえのないものだ実感すること

### 本県の20歳未満人工妊娠中絶の状況

本県の20歳未満人工妊娠中絶実施率は平成5年頃までは、全国平均を下回っていたが、近年では全国よりやや上回る傾向にある。平成26年度は全国より1.4ポイント高い7.5であった。

#### 20歳未満人工妊娠中絶実施率の年次推移

(15歳以上20歳未満女子総人口千対)



#### 20歳未満人工妊娠中絶件数の年次推移【本県】

(単位：人)

年度	S45	S50	S60	H2	H7	H12	H17	H21	H22	H23	H24	H25	H26
20歳未満	149	177	281	299	439	660	456	370	323	274	309	324	299

■ 出典 鹿児島県の母子保健（鹿児島県子ども福祉課）

※ ～平成13年分：年計（厚生労働省「母体保護統計報告」）、平成14年度分～：年度計（厚生労働省「衛生行政報告例」）

◇ 人工妊娠中絶の定義及びその適応については、「母体保護法第2条第2項及び第14条」を参照

◇ 人工妊娠中絶が女性の心身に及ぼす影響については、「性感染症とは～予防啓発に役立つ情報」（公益財団法人性の健康医学財団ホームページ：<http://www.jfshm.org/>）を参照

### 子どもの虐待死の背景

(複数回答)

位	区分	人数	割合
1	望まない妊娠／計画していない妊娠	110人	21.7%
1	妊婦健診未受診	110人	21.7%
3	母子健康手帳の未発行	89人	17.6%
4	若年（10代）妊娠	84人	16.6%

■ 出典「子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について（第11次報告）」  
（平成27年10月 厚生労働省）  
※ 数値は、第3次～第11次報告における心中以外の虐待死の総数507人についての「妊娠期・周産期の問題（心中以外の虐待死）」から上位4位を掲載

これらの背景があれば、必ず虐待に至るというわけではないが、望まない妊娠や、計画していない妊娠の場合、誰にも相談できずに、母子健康手帳の未発行や妊婦健診の未受診（健診の回数が極端に少ない）になりやすい。そのため、妊娠中に適切な心身のケアを受けられないまま出産し、知識や技術が伴わない中でどうしていいかわからず、虐待のリスクが高くなる。

「望まない妊娠／計画していない妊娠」という事態に直面した時、短期間で「生命」に関わる重大な判断をすることとなる。十分な話し合いやカウンセリングによって総合的に判断することの大切さをていねいに伝えたい。専門の相談機関については、次ページを参照。